1．小児に対する高気圧酸素治療―耳抜きと耳の障害―

佐々木章*1)　坂元英雄*1)　堀江　弘*2)
川上　浩*2)　江東孝夫*3)
(*1)千葉県こども病院ME　*2)　同　検査科
*3)　同　外科)

【目的】当院での小児に対する高気圧酸素治療(以下HBO)において，耳抜きで難渋する症例がみられ，その結果として浸出性中耳炎に移行する場合が数例見られた。今回，小児における耳抜き不良の症例について検討し報告する。

【対象・方法】1990年6月から1993年6月までを対象とし，患児62人に対するHBO回数は延べ578例であった。その内耳抜きで障害のあった症例は20人（32.2%）延べ44例（7.6%）で，検索した項目は以下の通りとした。

1．耳痛のため加圧を一時停止した症例。
2．鼓膜切開を要した症例。
3．中耳炎を起こした症例。

【結果】1．患児18人，延べ27例であった。この内，治療後に鼓膜切開を行った症例は延べ9例，治療を中止し，内科治療に切り替えた者は4例，その他延べ14例は無事耳抜きが出来た。また，加圧を一時停止した症例の内，中耳炎に移行した症例数は5例であった。2．患児10人，延べ17例施行した。この内再切開を必要とした症例が延べ7例含まれる。3．患児6人，延べ7例であった。

【考察】耳痛のため加圧を一時停止した症例延べ27例の内，浸出性中耳炎を起こした症例は延べ5例であった。中耳炎の総数は7例であり，2例は一時停止せずに治療できたが，結果として耳抜きは不良であったものと考えられる。また，患児62人の内，10人（16%）が鼓膜切開を必要とした。

【まとめ】前回スムーズに治療を行えた患児に対しても，加圧時に耳痛を訴える場合には中耳炎になる恐れがある。よって，充分な注意を必要とする。また，治療後において耳痛などの症状の有無を確認し，異常がみられる場合には必ず耳鼻科に受診すべきであると思われる。

2．耳抜きトラブルによる加圧操作一時中断例の検討

林　啓介　西山博司　末永庸子　片山貴晴
小林繁夫　山本五十年　高橋英世
(名古屋大学医学部付属病院　高気圧治療部)

【目的】当治療部では，第2種高気圧治療装置を用い，1993年1月から6月までの間に延べ2336件の治療を行った。この期間の患者数は79名で，そのうち初めてHBOを受けた患者は74名であったが，HBO加圧途中で耳痛の訴えにより加圧操作を一時中断または治療を中止する場合が度々生じた。そこで今回，治療の安全管理を実現するために耳抜きトラブルによる加圧中断例について調べたので報告する。

【方法】患者が耳痛を訴えたり，耳痛症状を示した時の加圧一時中断圧力値を記録し，疾患，性，年齢別による影響を比較検討した。

【結果】初めてHBOを受けた患者74名のうち，初回の治療で加圧を中断したのは18名であった。初回の治療で耳抜きのトラブルがなくとも，2度目以降でトラブルを起こした例があった。当治療部では初めての患者には，装置内に職員が一緒に入り耳抜き方法を指導しているが，これらの例は耳抜きの要領を十分に理解していなかったためと思われる。加圧中断は，1.2ATAから1.5ATA前後に集中した。また同じ患者でも耳抜きがうまく行えず，1.2ATAから1.9ATTの間に2回から4回中断した例もあった。疾患別では，インプラント術後や変治唇裂形成術後など口腔外科関連の症例は，副鼻腔などの浮腫によりValsalva法の実施が困難で，殆どの症例が耳抜きトラブルを生じた。

【まとめ】耳抜きトラブル経験の有無にかかわらず，耳抜きの要領を一度会得した患者は，殆ど耳痛を訴えなかった。しかし，数10回以上の入室経験者でも，風邪などに罹患した場合にはトラブルを生じた例もあり注意が必要である。